

つやまっ子に贈る100冊の本

相手を思う気持ちが大切



推薦者
杉元 美穂さん
(神戸)

4年前に書店でたまたま見かけた『ウェン王子とトラ』。表紙には、大きなトラ。そして、そのトラにまるで食べられているかのような男の子。でも、よく見るとトラの表情はどこか悲しげで、男の子はトラに寄り添っているかのようにも見えます。この表紙を見たとき「どんな内容なんだろう」と思い、手に取りました。

人間に子トラを殺された母トラは、人間を憎み、村人や家畜を襲うようになります。「トラの怒りを鎮めるためには王子を母トラに差し出すことだ」と占い師に進言された国王と王妃は身を引き裂かれる思いで幼い王子を母

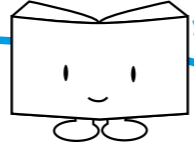
トラに差し出します。やがて、成長した王子を取り戻すため母トラを追い詰めていく国王と王妃。しかし、母トラを守ろうとする王子の姿が国王と王妃の心を動かします。

本当の優しさは自分の弱さと向き合う強い心がなければ、持つことができないと思います。この本は、相手を分かろうとする気持ちがとても大切だと気付かせてくれます。また、それぞれの登場人物の気持ちを考えながら読むと、いろいろな感じ方ができて心にしみる1冊です。

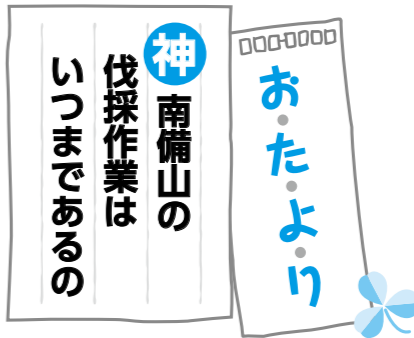
『ウェン王子とトラ』
チェン・ジャンホン
作・絵 平岡 敦 訳
(徳間書店)



つやまっ子読書プランキャラクター
「ぶっくちゃん」



神南備山で雑木の伐採作業をしているのを見ました。この作業はいつ頃終わるのでしょうか。終わったら登ってみたいと思っています。(小田中・女性)



▲神南備山展望台からの眺め

問い合わせ先 観光振興課
☎32・2082

なつた景観をご覧ください。
《展望台開錠時間》
4月～9月 午前6時～午後6時
10月～3月 午前6時～午後5時

きらめく津山人

漫画で思いを伝えたい

漫画家

胡桃 ちのさん(津山市出身)



津山市出身で津山の商店街を舞台にした漫画『アキナイ☆ダマシイ』を月刊まんがタウンで連載中の胡桃さんにお話を伺いました。

漫画家を目指したきっかけは？
幼い頃から絵を描くことが好きで、小学生の時には大学ノートなどに自作の少女漫画を描いていました。また、漫画を読むことも大好きで、漫画の立ち読みなら何時間でも立っていられるほど、夢中になって読んでいました。当時は市内の書店を次から次へと巡って、立ち読みをしていましたね。小中学生の時

漫画作りの魅力は？
モノづくりやまちづくりなど、実在するものを作ることは大変なことですが、漫画なら紙とペンがあれば、頭の中でイメージしたものを表現することが出来ます。自分で好きなようにイメージを膨らませて、一つの世界を作り上げていくことは本当に楽しいです。

によく読んだ漫画の中で、特に影響を受けたのは萩尾望都さんや青池保子さん、三原順さんの作品です。

大学生の時、雑誌に投稿した漫画が掲載されました。それから投稿を続けて、掲載されたり、時には雑誌社から作成の依頼が来たりすることもありました。その時は趣味の延長線上のアルバイト感覚で描いていました。大学卒業後、一般企業に就職し、結婚を機に退職しました。そして、本格的に漫画を描いてみようと思うようになりました。

しいです。

また、自分が面白いと思いついた漫画に共感してもらえた時はとてもうれしかったですね。『アキナイ☆ダマシイ』を描こうと思ったきっかけは？
漫画家になってから、帰郷する度に寂しくなっていく津山のまちなかを見て、悲しさを感じていました。



▲『アキナイ☆ダマシイ Vol.1』(双葉社)表紙

胡桃 ちのさんの直筆サイン色紙を1人にプレゼント!



応募方法は16ページ「広報クイズ」をご覧ください

描けるようになりたいです。

津山は外から人が呼び込めるまちだと思います。例えば、商店街の店舗の2階を民宿にして、宿泊できるようにすれば、まるで津山に住んでいるかのような感覚になる。そんな仕掛けなど作れたら面白いですね。

また、カメラで撮影することが好きな人が思わずレンズを向けたくなるような小さいけど趣のあるお店やたまたま面白いなどがあふれる「絵になるまち」になってほしいです。

今後の目標は？
画力・表現力をもっと付けて、自身のイメージをより忠実に表現できるようにしたいです。自分で納得できるレベルの作品を